

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
継続事例実習	1・2	後期・前期	2	実習 90時間
担当教員	久保幸代、志村千鶴子、下睦子、潮田千寿子			
授業概要	妊娠期から妊婦を受け持ち、分娩期および産後の育児期までの継続した助産ケア実践し、地域で生活する対象への助産ケアについて、必要な理論、知識、技術、支援システムについて学習する。また、出産後の受け持ち事例では、地域での育児に助産師が出産を通して、継続的にかかわることの意義と助産ケアの在り方を修得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 継続事例について、妊娠期から育児期までのアセスメントができる。</li> <li>2. アセスメントの結果から必要なケアを考えることができる。</li> <li>3. 必要とされるケアについて、指導を受けながら実践することができる。</li> <li>4. 妊娠期からの継続支援の意義について考えることができる。</li> </ol>			
履修条件	特になし			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠中期から産後4か月までの継続事例を1名受け持つ。</li> <li>・継続事例の妊娠中、毎回の健診及び、保健指導に立ちあい、助産計画の立案・ケア実施・評価を通して、個別的継続的支援について学ぶ。</li> <li>・継続事例の出産時には、産婦の、生理的側面、心理・社会的側面をアセスメントし、必要な助産ケアを実践する。</li> <li>・出産後、産後ケアや退院後の育児支援(家庭訪問を含む)に継続的に関わる。</li> <li>・カンファレンスを通し、学生間の学びを共有し、継続支援について考察を深めることができる。</li> <li>・妊娠期から助産計画の立案・ケア実施・評価を行う。</li> </ul>			
教科書	特に指定しない			
参考書	特に指定しないが、事例に応じて必要な文献資料等を提示する。			
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成行動による総合的評価(60%)</li> <li>・実習記録による学習成果(40%)</li> </ul>			
事前・事後学習	<p>事前学習：既習の周産期助産ケアに関する学習全般について復習する。受け持ち決定後は、状況に応じて健診時期に対応する経過内容を予習し、個別的なケアに対応できるように、実習前に指導教員と相談の機会を持つ。</p> <p>事後学習：当日のうちに、健診内容やケアの状況を記録として整理し、その後の経過予測に基づき次回健診結果に生かせるようにする。同時に自身の学びについて考察を深めるために記録を残しておく。</p>			
備考	特になし			